第10回総合教育会議 会議録（概要）

日時：令和3年11月22日（月） 午後1時30分～午後2時45分

場所：（水俣市役所）仮庁舎2階 第1会議室

【水俣市総合教育会議出席者】

市長	高岡 利治
教育長	小島 泰治
教育委員	平尾 雅述
教育委員	堀 浄信
教育委員	山田 誠次
教育委員	本田 恵津子

【市長部局：事務局及び関係出席者】

総務課長	梅下 俊克
スポーツ交流課長	中村 俊彦
総務課 行政管理室	濱野 徹
総務課 行政管理室	園田 彩乃

【教育委員会：事務局出席者】

教育次長	坂本 禎一
教育総務課長	赤司 和弘
生涯学習課長	梅下 彰
教育総務課指導主事	福山 達郎
教育総務課 総務係	田上 朋史
教育総務課 総務係	白坂 優季

【傍聴者】0名

1 開会（司会進行：総務課 行政管理室 濱野）

・市長あいさつ

今年度は第1回目となります第10回総合教育会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、日頃から教育委員の皆様には教育行政の推進にご尽力賜りまして、改めて感謝申し上げます。

平成30年度に見直しを行った現在の教育大綱は、本年度までとなっておりますので、不足している点がないか現計画について見直しいただき、今後の方向性や方針について議論いただければと思います。

短い時間ではありますが、実りある協議の場にしたいと思いますので、どうぞよろしくお願
いいたします。

2 議事（市長招集のため、高岡市長が議長となり進行）

（1）協議事項

水俣市教育大綱を踏まえた今後の方向性について

高岡市長 まずは、これまでの教育大綱に基づいた取組みを各課から説明します。

（※教育総務課 赤司課長、生涯学習課 梅下課長、スポーツ交流課 中村課長からそれぞれ
資料を用いて説明）

高岡市長 ただいま事務局から説明がありましたが、まずは各課の取組みについてご質問、ご
意見をいただき、その後に令和4年度以降の教育大綱についてとさせていただきます。

山田委員 今年度より、スポーツ事務が市長部局へ移管されましたが、社会体育としての小学
生クラブの位置付けはどうなっているかお尋ねします。学校の先生が関われなくなった分、
少し勝負にこだわり過ぎだったり、指導者の言動に問題があったり、あるいはクラブ間での
もめごとがあったりという事例も実際に出ております。子どもたちを育てるという大事な側
面がありますので、指導者への意識付けなど、何かしらの方策を市として考えてほしいと思
います。指導者の言動は、直接、子供たちにも影響がありますし、これから先の時代を担う
子供たちの成長のためにも、よろしくお願ひします。

中村課長 そのようなお話は、水俣市スポーツ協会にも来ていまして、指導者の方々のための
研修について協議を行っているところです。

堀委員 不登校について、教育委員会定例会でも話をしています。スクールソーシャルワーカー
として、3名の方に週3回来てもらっており感謝します。個別性の高い支援も必要になり
ますし、国としても各中学校区に1名のスクールソーシャルワーカーを、ということを行っ
ております。いじめの対応などについても、先生方の負担軽減になっていると思います。
不登校になっている子にとっての居場所づくり、学校には行けないが、ここなら行けるとい
う選択肢として、市の自立支援室にも来てもらっていますが、SDGsの観点から誰一人取
り残さないためにも、より個別的な支援ができたかなと思います。

赤司課長 自立支援室の利用者数は増加傾向にあります。2名体制で運営していますが、新庁

舎完成後は、教育委員会事務局と離れてしまいますので、連携を図れるように気を付けながら取り組んでいきます。

本田委員 時代の変化、あるいはコロナ禍だからなのか、学校に行けない子が全国的に増えているので、もう少し人員を配置して、大げさに言うと第三の学校みたいに気軽に通える自立支援教室のような場所が必要だと思います。

スポーツ振興については、キッズサポーター基金の使用方法を詳しく知りたいです。先日の学校訪問で、社会体育に参加したくても、へき地の子たちは送り迎えが大変で参加できないという話を聞きました。そこに基金を活用する方法はないかなと思います。

それと、学校が関与しないということで、指導者の質が問われる事例も発生すると思うので、指導者のための研修は必要だと思います。

中村課長 基金の使い方として、40以上の登録団体に対し、奨励金として年間1万円を交付しています。また、九州大会、全国大会に出場する選手に対しては、奨励金1万円または2万円を交付しています。それに加えて、上限1万5千円として、全国大会出場等の看板設置費も交付しています。

本田委員 奨励金について、大人にもそういう制度はありますか。

中村課長 事業は別になりますが、あります。

本田委員 参加したくてもできない子供に対して、何か支援策はないかなと思います。社会体育は、子供の運動不足を防ぐためにも必要なもので、地域格差がないようにもしてほしいです。

高岡市長 小学校部活動の社会体育への移行については、特に山間部の子供たちにとっては練習場所の問題があると思います。ただ、中学校の部活動も社会体育への流れになっており、水俣市はどうするのか考えていく必要があります。

キッズサポーター基金による奨励金は、勝ちにこだわった部分についてウェイトを置いています。その辺は人材育成、指導者の指導力次第で差が出てきますし、指導者自身の人間力向上も求められていると思います。

平尾委員 先日、学校訪問を行い、子供たちの生き生きとした学習する姿に触れることができました。タブレット教育が浸透し、便利なものを活用するのも大事ですが、人の心を耕すのは読書なので、直接、本を読むことも大切にしてほしいです。

知・徳・体の3つの柱がありますが、どれも取りこぼしができません。

市として芸術に触れる機会を作ってもらっていますが、より充実させながら、社会体育の

ように地域ごとの指導者も活用して盛り上げていければと思います。

高岡市長 平尾委員からは、毎年、スポーツだけでなく芸術の方もお願いしますと意見をもらっていますので、重々承知しています。文化・芸術に触れる機会は、市としても子供たちに提供していきます。

小島教育長 不登校について話が出ましたが、文科省としても、不登校の時期は自分を見つめ直す時期と言っていますので、我々としても、自立支援教室のような居場所を作ってあげて、できることから少しずつ進めていけたらと思います。

高岡市長 次に、教育大綱について話を進めますが、ご意見、ご質問はございませんか。

山田委員 教育大綱については、中身の具体的な文言に対してというよりは、全体的なイメージとして議論しておきたいことがあります。誤解があったら申し訳ないのですが、先生方の職場での人権意識がどうかなと感じることがあります。同僚として先生方の間での人間関係についても、先輩の先生の発言力が強すぎるなど感じることもあります。道徳や人権教育などで子供たちの指導はされると思いますが、先生同士の日常生活の何気ない会話の中からも子供たちは何かを感じるがあると思います。

それと、親ガチャ（子供は親を選べないという意味）という言葉もよく聞きますが、家庭状況の二極化が目につきます。意識の低い家庭に対してもしっかりと目を向けてほしいと思います。

堀委員 大綱中の「熱意あふれる人材」という文言が引っかかります。日本人はよく頑張れと言いますが、外国の人はがんばれと言われると、もう頑張っているけどと一歩引いてしまうところもあるようです。教育には、SDGs的に自分のこととして子供たちが主体的に取り組むことが大事です。表に出る熱意もありますが、目に見えなくても静かにがんばっている熱意もあります。

本田委員 現在の教育大綱は、3つの項目のバランスが取れていると思います。その中で1番目の中に「活気ある水俣」とありますが、どうしたらそうなるのかなと考えています。教育委員会だけでなく、垣根を取り払い、他の課も連携して一体となり、学びあう環境を作ることが大事と感じます。あと、3番目の中に「社会教育を充実」とありますが、高齢者が生き生きと元気に活動しているのとは比べ、その間の仕事をやっている世代にとっては、場所がないと感じています。何かを学びたいと思ったときに、その場所が見つかるようなそんな取り組みも考えていただけたらなと思います。

平尾委員 知・徳・体は昔から言われていますが、やはり、心を耕し、豊かにしないといけないと思います。教育はその先まで考えて、子どもたち一人一人の個性を生かすためには、家庭だけじゃなく地域社会でも育んでいくという考え方を持つべきです。

小島教育長 3点申し上げます。まず、2番目については、ハード面の教育環境を整えることとして、各学校にクーラーを整備し、一人一台のタブレットも導入しました。しかし、それから先の成果を出すのはそれぞれの教員にかかっていると思います。そのため、「教員の指導力向上」という文言も入れられればと思います。芦北管内は学力が低迷していますが、その原因として家庭での学習時間が少なかったり、計画を立てて学習できていないことなどがありますので、学校と家庭とが連携して取り組めたらと思います。

次に、社会教育として、新庁舎完成後、蘇峰記念館がどうなるか気になります。先ほど、梅下課長から文化財活用保存計画を検討するという話もありましたので、この辺とも結びつけて、観光資源として活用できないかとも思います。

最後に、教育大綱の中に、「誰一人取り残さない」というSDGsの文言を入れることはできないかと思います。

山田委員 ここで述べるべきか分かりませんが、教育委員会の点検評価について、評価の在り方を見直すことができればと思います。担当課だけでなく他の課や施設との連携の部分についての評価項目があればいいなと考えました。

それと、社会体育のクラブについて、こういうことがないことを願いますが、もし、市からの願いを無視して活動しているクラブがあれば、そこに対する罰則など、市が強制力を持って指導する必要もあるかもしれませんので、ご検討いただければと思います。

堀委員 海外では「教育」と言わず「学習」と言います。いいところを引き出すという意味の **Education** です。日本では、教える立場の人が大きな存在になっていて、そこまで上がってこいというイメージになっていますが、それぞれの子供たちのいいところを引き出してやって、子供たちが自ら学んでいく教育環境を作るという意味で、教育という言葉を使えたらと思います。

平尾委員 先ほど、読書の件を述べましたが、町から本屋がなくなるという危機感に対し、ある本屋が入店料をとって、その分、店の本は何でも読んでいい、という取組みを行ったら来店客が増えたという話を聞きました。これは発想の転換ですね。教育だったら教育委員会だけがやるのではなく、色々なところからの知恵をもらって取り組んでもいいと思います。

(2) その他

高岡市長 その他に何かありませんか。

堀委員 (子ども食堂について、資料を用いて取組み内容を説明)

山田委員 子ども食堂の話は、非常に共感する部分があります。ネズミと人との違いはどこなのかなど。その部分で教育が大きな役目を果たすと思います。ひどい状況になる前に、様々な先人の経験を伝えていくことこそが教育だと思いますので。

本田委員 貧困は身近な話ではないと思っていましたが、水俣市でも厳しい状況があることを知りました。それと、教育委員になって、学校に行けない子がこんなに多いのかとも感じました。大人や地域など、色々な人との関わりは大事にしたほうが良いと思いますので、教育委員会と福祉課などが連携して、学校に行けない子たちにどう手を差し伸べるか考えなければいけないと思います。

平尾委員 不登校の子供たちの名前を見るたびに、本人も悩んでいるだろうと思いますが、大人が関わりながらその子供たちの引き出しを作ってやるのが大事で、その一つに地域食堂もあるのかなと思います。

梅下彰課長 先ほど、福祉との連携の話が出ましたが、福祉課には家庭相談員もおり、学校の先生と子供たちのご家庭を訪問することもあります。

福山指導主事 不登校に関しては、改善すべき部分があると改めて感じました。また、先生方の授業力と指導力の向上及び人間関係については、何かしらの手立てが必要だと思います。

赤司課長 現在も、福山指導主事を中心に福祉課と連携して、個別案件についての対応を行っています。本日いただきましたご意見については、どういう形で取り組んでいけるか考えたいと思います。

高岡市長 先週、文部科学省に行き、大臣官房の課長と教育の今後について話をしました。教育委員会の在り方など少ない時間の中で充実した話ことができました。学校の運営の在り方について問題意識を持っておられ、特に教育行政は閉鎖的で、教育のことだから教育委員会だけがというのではなく、それ以外も関わるべきだということでした。GIGAスクール構想にしても、タブレット端末を整備してそれで安心するのではなく、今後どうやって使っていくか、それを指導する先生のスキルアップなどの課題もあります。

今回頂いたご意見をもとに、教育委員会及び市長部局の事務局で検討し、課題解決のための事業の実現に結び付けられたらと思います。

今後とも引き続き、皆様のご理解、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

それでは時間がまいりましたので、これもちまして、第10回水俣市総合教育会議を閉会といたします。

3 閉会（総務課行政管理室 濱野）

本日の皆様の意見をもとに、教育大綱（案）を作成し、再度委員の皆様からご意見をいただきたいと考えております。次回の開催については未定ですが、来年2月頃の開催を予定しております。開催については、事前に通知させていただきます。

本日は長時間にわたり、活発なご意見をいただき、ありがとうございました。